令和２年６月25日

Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社
代表　後藤　暢茂　様

一般社団法人日本生態学会北海道地区会
会長　工藤　岳

（仮称）苫東厚真風力発電事業計画段階環境配慮書に対する意見書

苫小牧市東部から厚真町・むかわ町にまたがる勇払原野は、ラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖を含み、ウトナイ湖・弁天沼を含む西側と入鹿別川から鵡川流域に至る東側の二区域が重要野鳥生息地（IBA）および生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）に選定されている。これら選定区域は、動植物の重要な生息地として国内外に認知されており、その隣接地域にも自然度の高い湿原、草原、湖沼等がまとまって存在し、選定区域と連続した多様な動植物の生息地となっている。（仮称）苫東厚真風力発電事業は、このような保全上重要な生態系を大規模に改変するものであり、この地域で長年保たれてきた動植物相にもたらす影響が極めて強いと予測される。そのため、現在計画されている苫東厚真地域における風車の建設を再考するよう、下記の通り要望する。

記

事業実施想定区域の生態学的重要性

以下で述べる通り、本事業実施想定区域（以下、計画用地）は生物多様性保全上の重要度が高いので、風車建設地として不適切である。

1. 計画用地の大部分が、湿原（合計約 72ha）と長さ約 3 ㎞に渡る海浜草原を含む自然・半自然草原（合計約 390ha）といった自然度の高い土地利用に占められている（Senzaki & Yamaura 2016; Kitazawa et al. 2019 を基に計算）。特に、計画用地内の湿原面積は、弁天沼東側の湿原面積（約 70ha）に匹敵し、勇払原野東部では最も大きい。明治以降、自然湿原は石狩平野では 99%以上、勇払原野では約 83%が開発により失われた（国土地理院）。計画用地は、石狩低地帯からはほぼ消失した湿原と自然・半自然草原が大規模に現存する道央圏の希少地域である。

2. 計画用地は、勇払原野の中でも有数の希少種・絶滅危惧種の生息地である。鳥類では 42 種類の北海道レッドリスト掲載種が確認されており、そのうち 12 種類について繁殖が確認されているか繁殖の可能性が高い（日本野鳥の会）。中でも、チュウヒ（環境省レッドリスト絶滅危惧 IB 類・国内希少野生動植物）は、2012～15 年に行われた調

査によると、計画用地内の西部、中央部、海岸部およびその近傍の複数湿原で毎年平均 6.75 つがい（範囲 6〜8 つがい）が繁殖しており、毎年平均 5.25 羽（範囲 2〜9 羽）の雛が巣立っている（Senzaki et al. 2015; Senzaki et al. 2017 を基に計算）。これらの数値は、計画用地に隣接する IBA・KBA はもとより国内でも他に類を見ないほど高く、計画用地が国内における本種の最重要繁殖地であることを示している。また、近年は海岸部の湿原へのタンチョウ（環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類・国内希少野生動植物種・特別天然記念物）の渡来が相次いでおり、2017 年には繁殖が確認されている（日本野鳥の会）。さらに、計画用地には、近年激減している日本固有亜種・アカモズ（環境省レッドリスト絶滅危惧 IB 類）の勇払原野に残された最後の繁殖地があり、バードストライクの懸念があるオオジシギ（環境省レッドリスト準絶滅危惧種）も多数繁殖している（日本野鳥の会）。哺乳類ではカラフトアカネズミ、ヒナコウモリ科コウモリ類（ヒナコウモリまたはヤマコウモリ）など、節足動物ではアオヤンマ、マダラヤンマ、ゲンゴロウ等の北海道レッドリスト掲載種が生息している（Senzaki & Yamaura 2016; 日本生態学会北海道地区会　未発表）。

本事業計画の問題点

本事業の計画段階環境配慮書（以下、配慮書）には、以下の通り重大な問題点があり、再考が必要である。

1. 第一の問題点は、配慮書では計画用地における風車建設とその関連工事が野生生物に影響を及ぼすことが予測されているにもかかわらず、その対策と効果についての具体的な記述が全く欠如していることである。計画用地は、周囲を二つの IBA・KBA に囲まれており、西側の IBA・KBA との最短距離は 2 ㎞未満である。専門家へのヒアリングでも指摘されているように、哺乳類や大型鳥類等の行動圏は半径 2 ㎞より優に大きく、計画用地と IBA・KBA の双方を利用する動物は少なくないと考えられる。例えば、計画用地は、IBA・KBA 内で繁殖するチュウヒの採食地である（Senzaki et al. 2017）。また、東西の IBA・KBA を行き来する最大 1 万 5 千羽のガン類（マガン、ヒシクイ、シジュウカラガン）の飛翔ルートでもある（先崎　2012；日本野鳥の会）。そのため、計画用地への風車建設は、行動変化やバードストライク等を通して（Larsen & Guillemette 2007; Schippers et al. 2020）、隣接する IBA・KBA におけるこれら動物の個体数減少を引き起こす可能性がある。さらに、動物の行動や生息への影響は、風車建設地よりも数百 m〜数㎞先にまで及び、種間相互作用や食物網にまで波及する可能性がある（Raiter et al. 2015; Thaker et al. 2018）。そのため、計画用地への風車建設は、隣接する IBA・KBA の生態系を大きく変容する危険性を孕んでいる。このような地域での風車建設は避けるべきである。

2. 第二の問題点は、計画用地内に生息する希少・絶滅危惧動物に関する文献調査および

専門家へのヒアリングが不十分で、これら動物への風車建設の影響が適切に予測・評価されていないことである。例えば、配慮書 260 ページの専門家等へのヒアリング結果概要では国内希少野生動植物種であるチュウヒについて触れられていないが、同種に関しては、計画用地内での生息（日本野鳥の会　2006）および繁殖成績とその影響要因（Senzaki & Yamaura 2016; Senzaki et al. 2015; 2017）が報告されている。そのため、本計画用地に関しては、計画用地内で繁殖するチュウヒに風車建設が与える影響を予測できる状態にあるが、こうした評価は全く行われていない。また、水辺に生息する重要種をはじめとした多くの動植物に対して、「重大な影響が実行可能な範囲内で出来る限り回避または低減されていると評価」しているが、その具体的な低減手法については検討されていない。計画用地には、希少種・絶滅危惧種が広く生息している。地域の生態系への影響を考慮すると、計画用地への風車建設は好ましくない。

風車建設は、生態系への負荷が極めて小さい場所で行われなければならない。なぜなら、豊かな生態系は、地域社会に様々な経済的・非経済的な価値をもたらしているからである。本事業の計画用地を含む苫東地域はこれまでも幾度か開発の危機に曝されてきた。しかし、この地域の生態系の重要性と生物多様性保全の観点から、それらの計画は撤回または凍結されてきた（添付資料）。今回の風力発電計画においても、この自然の価値を科学的に評価し、適切な判断が行われることを要望する。

以上

令和 2 年 6 月 30 日

（仮称）苫東厚真風力発電事業計画段階環境配慮書に対する意見書　添付資料

1）苫小牧東部地域での開発事業と保全に関わる略年表（石城 2015 から抜粋・改変）

1971 年　国による「苫小牧東部大規模工業基地開発基本計画」策定
1982 年　国による「千歳川放水路計画」策定
1995 年　「千歳川放水路計画」の見直しによる「苫小牧東部開発新計画」策定
1996 年　ITER 誘致計画
1999 年　「千歳川放水路計画」の中止決定
2003 年　北海道による「安平川河川整備計画検討委員会」設置
2007 年　「安平川河川整備計画検討委員会」が原野内の 950ha を「河道内調整地」とすることを決定
2014 年　「河道内調整地」の範囲が決定（調整地内は今後開発を免れることに）

2）引用・参考文献

環境生活部環境局生物多様性保全課（2019）北海道レッドリスト【北海道】. https://www.harp.lg.jp/opendata/dataset/697.html. (2020-06-08 参照).

Kitazawa, M., Yamaura, Y., Senzaki, M., Kawamura, K., Hanioka, M., & Nakamura, F. (2019) An evaluation of five agricultural habitat types for openland birds: abandoned farmland can have comparative values to undisturbed wetland. *Ornithological Science*, *18*, 3-16.

石城兼吉（2015）勇払原野の自然と歴史．野鳥　793：22－24.

国土地理院　日本全国の湿地面積変化の調査結果（表 5）湿地名称ごとの湿地面積の減少・増加．https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/list_5.html（2020-06-08 参照）.

Larsen, J. K., & Guillemette, M. (2007). Effects of wind turbines on flight behaviour of wintering common eiders: implications for habitat use and collision risk. *Journal of Applied Ecology, 44*, 516-522.

日本野鳥の会（2006）野鳥保護資料集第19集　ウトナイ湖・勇払原野保全構想報告書．（財）日本野鳥の会，東京.

日本野鳥の会　勇払原野保全構想に係る対象範囲南部・重要鳥類生息データベース．（2020-

06-10 問い合わせ・参照）．

Raiter, K. G., Possingham, H. P., Prober, S. M., & Hobbs, R. J. (2014) Under the radar: mitigating enigmatic ecological impacts. *Trends in ecology & evolution*, *29*, 635-644.

Schippers, P., Buij, R., Schotman, A., Verboom, J., van der Jeugd, H., & Jongejans, E. (2020) Mortality limits used in wind energy impact assessment underestimate impacts of wind farms on bird populations. *Ecology and Evolution*.

先崎理之（2012）胆振地方東部のガン類．みんなでマガンを数える会　25 周年記念誌（pp103-106）．宮島沼の会，美唄市.

Senzaki, M., & Yamaura, Y. (2016) Surrogate species versus landscape metric: does presence of a raptor species explain diversity of multiple taxa more than patch area? *Wetlands ecology and management*, *24*, 427-441.

Senzaki, M., Yamaura, Y., & Nakamura, F. (2015) The usefulness of top predators as biodiversity surrogates indicated by the relationship between the reproductive outputs of raptors and other bird species. *Biological Conservation*, *191*, 460-468.

Senzaki, M., Yamaura, Y., & Nakamura, F. (2017) Predicting off-site impacts on breeding success of the marsh harrier. *The Journal of Wildlife Management*, *81*, 973-981.

Thaker, M., Zambre, A., & Bhosale, H. (2018) Wind farms have cascading impacts on ecosystems across trophic levels. *Nature ecology & evolution*, *2*, 1854-1858.